

新型コロナウイルス感染症予防の学生への取り組み
 —学生への感染症予防調査からの考察—
 The Effort to Prevent the Spread of Coronavirus for the Students
 —An Observation from the Investigation of Prevention of Infectious Diseases
 —

毛利 愉子

MOURI Yuko

【要約】

新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた時期は、メディア等からの情報の氾濫もあり、入学したばかりの学生に、感染症とその予防について正しい理解を図るため、「正しい知識の啓発」「体調チェックシートによる健康管理の習慣化」「教室等の消毒による感染予防と動機づけ」「感染症対策マニュアルの作成と実習準備」等を実施した。

取り組みの評価をおこなうためにアンケートを実施したところ、「役に立った」という回答が多く、学生への意識づけとなったと考えられる。一方、時間の経過と共に、危機意識が薄れることから、常に感染予防を意識化する雰囲気づくりと学生が楽しみながら感染予防を継続して実施できる取り組みを検討していくことが課題であると示唆された。

キーワード 新型コロナウイルス感染症 介護実習新型コロナウイルス感染症対策マニュアル 体調チェックシート 基礎実習 感染症対策

I. 背景及び目的

新型コロナウイルス感染症は 2019 年、中国を中心に発生し、短期間で全世界に広まった。2020 年、日本での新型コロナウイルス感染症の流行により、一人ひとりに新しい生活様式が求められ、各自の感染症予防が重要となった。新型コロナウイルス感染症の予防には「咳エチケット」「手洗い」「マスクの着用」等の一般的感染症対策が重要とされている。また、小規模患者クラスターから次のクラスターを生み出すことを防止することが重要であるとされ、厚生労働省は、「閉鎖空間において近距離で多くの人と会話する等の一定の環境下であれば、咳やくしゃみ等がなくても感染を拡大させるリスクがある」とし、「密閉・密集・密接」の 3 つの「密」を控えることを求めている。自分の感染だけではなく相手への感染を防ぐためにも社会的距離(ソーシャルディスタンス)を確保するという考え方が提唱された。

しかし、高校を卒業して間もない入学したばかりの学生は、メディア等で情報を得ていた

と思われるが情報の氾濫もあり、感染症と予防対策についての学びがなく、正しく理解ができていない状況であった。本学科は健康福祉を学ぶ学科であり、介護施設等で実習をおこなうことが必須となっている。そのことから感染症予防について正しく理解し行動できることが求められる。そのため、学科では入学当初から新型コロナウイルス感染症の予防について啓発し、学生が自ら感染症予防を実施できるように取り組みをおこなった。

本稿では、本学科がおこなった取り組みをまとめるとともに、学生自身がどのように実践し評価しているのかを把握し、今後の学生指導に役立てることを目的としている。

II. 学生への感染症予防の取り組み

入学当初より新型コロナウイルス感染症予防の啓発をおこない、対面授業開始時より体調チェックシートを用いた、学生自身の体調管理、複数の学生が触れる箇所である教室等の消毒、学生と共に介護実習新型コロナウイルス感染予防マニュアルの作成をおこなった。

1. 新型コロナウイルス感染症予防の正しい知識の啓発

(1) 入学オリエンテーションでの感染予防の啓発

新型コロナウイルス感染症予防方法と、体調管理の必要性を教授し、予防をすることの重要性の意識付けをおこなった。

本学では、新型コロナウイルス感染症対策本部が設けられ、厚生労働省の対策を基準とし、対策方法が検討された。それに基づき、本学科は感染症予防の実施に取り組んだ。

2020年4月3日の入学式は中止となり、新型コロナウイルス感染症の影響のため、感染予防策を徹底して、学科ごとの入学オリエンテーションが開催された。オリエンテーションでは、これからの短大生活において感染症予防が重要であることを伝え、短大より提示された「学生の皆さんへ 新型コロナウイルス対策について（お願い）」を配布し、基本的なポイントなどの確認をおこなった。

次に「手洗い、うがい」「換気」「三密を避ける」ことが重要であることを説明し、自分を守る行動を実施していくように伝えた。また、登校前には検温をおこない 37.0℃以上あった場合は、必ず電話連絡をすること、外出時にはマスクを必ず着用し、登校したら手洗いをおこない、玄関に設置してあるアルコールで手指消毒をおこなってから教室に入室するよう説明をした。さらに昼食は自席で摂るように再度説明をした。その他に、感染症予防の観点からアルバイトは禁止ではないが控えるように伝達をおこなった。

(2) 緊急事態宣言から zoom 授業開始まで

4月7日に政府より首都圏や関西圏の7都府県を対象に緊急事態宣言が発令され、5月6日まで外出自粛が要請された。富山県は要請が出されてはいなかったものの、感染者が増加してきていたこともあり、感染予防と不要不急の外出を自粛するように伝達し、アルバイトは自粛するように促した。

また本来であれば、4月9日より授業が開始される予定であったが、新型コロナウイルス

感染症拡大の防止のため、4月19日まで休講の措置が取られた。緊急事態宣言は4月16日には全国に拡大され、授業開始は5月7日からとなった。学生には、週に1回程度電話で近況確認をおこなうとともに、感染予防について指導をおこなった。

(3) ホームルーム、授業、休み時間での指導

4月28日に初めて zoom でのホームルームを実施し、再度感染予防について説明をおこない、5月7日から zoom で遠隔授業が開始された。約2週間、毎日午前8時50分からホームルームを実施し、体調確認、出席確認後、感染症予防に努めるように伝達を続けた。

遠隔授業の中、「生活支援技術Ⅰ」の科目において担当教員より「感染症予防について」の講義が行われ、感染症予防と管理に関する内容と新型コロナウイルス感染症における差別や偏見を防ぐための考え方や行動について教授された。

緊急事態宣言が解除され、6月1日から週2日(月・火)の分散登校が開始となり、対面で感染症予防についてのオリエンテーションを実施した。短大からの感染対策マニュアルを音読し、今後も感染予防に努めていくように全員で確認をおこなった。しばらくは自席で昼食を摂っている姿が見受けられたものの、登校回数が増えてくると、数人が対面で昼食を摂ることや、マスクなしでの会話・ソーシャルディスタンスが保たれていないことが増えるようになってきた。そのため、数名の学生が近距離で談笑しているときや昼食時に、距離を取るように声かけをおこなった。声をかけられた時は離れるものの、その後はまた同じ状態に戻っていることがしばしば見受けられるようになった。

2. 体調チェックシートによる健康管理の習慣化

感染症予防には学生自身が自分の体調チェックを管理できることが大切であるため、学科で考案した「体調チェックシート」(表1)を配布した。

表 1 体調チェックシート

健康福祉学科 体調チェックシート														学籍番号	氏名	
日にち	曜日	朝		昼		匂い 味覚	咳	痰	喉の痛み	倦怠感	頭痛	解熱剤 の服用	マスク 着用	生活	その他体調で気づいたこと	出かけた場所・会った人
		体温	検温時間	体温	検温時間											
記載例		36.3	7:00	36.5	13:00	ある(○) ない(○)	ある(○) ない(○)	ある(○) ない(○)	ある(○) ない(○)	ある(○) ない(○)	ある(○) ない(○)	ある(○) ない(○)	ある(○) ない(○)	学校・自宅	例: 昨日より頭が重い 肩こりが強い等	例: ○○スーパーに買い物(15時) ○○内科受診(18時)等
6月1日	月		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月2日	火		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月3日	水		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月4日	木		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月5日	金		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月6日	土		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月7日	日		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月8日	月		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月9日	火		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月10日	水		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月11日	木		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月12日	金		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月13日	土		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
6月14日	日		:		:	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	ある・なし	学校・自宅		
登校時の通学手段いずれかに○： 徒歩・公共交通機関・自家用車 ※通学手段が変更した日は表の「その他体調で気づいたこと」に記入してください。																

項目には「日にち」「体温」「検温時間」「匂い・味覚」「咳」「痰」「喉の痛み」「倦怠感」「頭痛」「解熱剤の服用」「マスクの着用」「生活」の有無について○をつけ、「その他体調で気づいたこと」「出かけた場所・会った人」は記載の様式をとっている。

毎日本調チェックをおこなうように伝達をし、学生がきちんと体調チェックができているか確認するため、時々予告なく体調チェックシートの提出を求め確認をおこなった。確認時には全員が日々体温測定を実施し、項目にもチェックや記載がなされていた。実習先より、家族の体調に関しても記載をするように求められ、家族に変化があった場合は、記載するように指導をおこなった。基礎実習 2 週間前より、1 日 1 回朝の検温から昼にも測定をすることとして午前、午後の体調の変化を確認できるようにした。

シートに記載する箇所が残り 2 日程になると、学生の方から新しいシートの配布を求めてくるようになった。

3. 教室等の消毒による感染予防と動機づけ

教室等の消毒の目的は 2 つあり、ウイルスを減らすことと学生自身の動機付けである。対面授業開始時に、学生が使用する教室、複数の人が触れる箇所の階段の手すり、トイレの蓋や便座・ドアノブ等、消毒を実施していくことを提案した。学生には、消毒の目的は、自分自身の感染リスクを防ぐこと、他者を感染させるリスクを防ぐことを説明し動機付けをおこなった。また消毒は、施設等の介護現場でも実践されているため、介護福祉を学ぶ者として、身につけておく行為であると説明をした。消毒は学生が使用する教室等を昼と帰宅前に実施した。実施にあたっては、時間帯を学生間で検討し、昼の時間については 12 時 50 分から実施することとなった。実施グループは机の列ごとで 9~10 人の日替わりで様子を見ることとなった。

第 1 段階の実施当初は、実施時間になったら教員が当番グループに声かけをおこない、消毒液の作り方と消毒方法（表 2）を伝え、一緒に実施をしてモデリングをおこなった。新しい行動を観察し教員と一緒に実施することにより、新しい行動様式を習得できるのではないかと考えた。その結果、開始当初は、教員に確認をおこないながら実施していたが、約 2 週間後には、教員が声かけをおこなわなくても、学生間で時間を確認して実施をするようになった。

表 2 消毒液の作り方

次亜塩素酸ナトリウム消毒液（0.05%）の作り方
500 ml のペットボトル 1 本の水に対し塩素系漂白剤 5 ml
（ペットボトルのキャップ 1 杯分）を入れる。

【注意事項】

- ※必ず、手袋を使用すること
- ※必ず、換気をしながら作業をすること
- ※消毒液で拭いた後、必ず水拭きをすること
- ※効果がなくなるので、作り置きをせず、その都度つくること
- ※作業後は手を洗うこと

第 2 段階は、週 3 日（月・火・木）

の登校となり、教員は時々見守りをおこなう程度となった。

第 3 段階、週 4 日（月・火・木・土）の登校となった時には、学生間で声をかけ合いながら実施をするようになり、教員の介入は不要となった。

後期に入り、富山県では感染者は数人で第 1 波の時より落ち着いていたため、数名の学生より「消毒は行わなくてもよいのではないか」という声が上がったが、インフルエンザとの同時流行が懸念されていたため継続することとなった。消毒を実施するグループ編成については、学生間で話し合いをし、各自が責任を持って実施できる曜日を決めた。しかし、第 3 波が到来した 11 月後半から、消毒をおこなわないで帰宅をする学生が増えた。再度、消毒についての効果等を説明し、その後は再び全員が消毒を実施したが、冬休み前より、実施者が 2 名という日もあった。

4. 新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの作成と実習準備

(1) 「介護実習新型コロナウイルス感染対策マニュアル」の作成

コロナ禍の中、実習担当教員と 2 年生が、実習先で感染予防を実施する上で、学生が意識し、実施していくように検討した「介護実習新型コロナウイルス感染対策マニュアル」を作成した。それには、実習 2 週間前の感染予防や、実習中の感染予防、体調不良時の対応などを検討し記載がしてある。例えば、実習前 2 週間前の感染予防では「アルバイトをしない」や、実習中の感染予防では、「実習生同士、休憩室が同じ場合は離れて座る。また同じ時間に休憩にならないようにお願いします」等も記載されている。それに基づいて、実習前、実習中も感染症予防をおこなっていけるように 1 年生に説明をおこない配布した。また、実習先へ本学科の取り組みを伝え、配布をおこなった。

(2) 実習前の施設職員の講義

8 月の基礎実習に向けて、7 月 18 日に実際に施設等で職員に陽性者が出たときの対応等について、施設当事者からの講義を受け、感染症予防に努めることの重要性を学んだ。また、正しい手洗い方法の講義を受けた。

(3) zoom での実習事前打ち合わせ

実習開始前の打ち合わせの目的には、「実習先の確認」「実習指導者への挨拶と自己紹介」「実習先の基本理念の理解」「実習期間中のスケジュール確認」「その他、注意事項の確認」がある。例年では、実習先に訪問をして実施していたが、新型コロナウイルスの感染リスクを軽減させるため、zoom での打ち合わせをおこなった。

協力実習施設及びプロジェクトとの実習イメージは、図 1 のとおりである。

(4) 実習前オリエンテーション

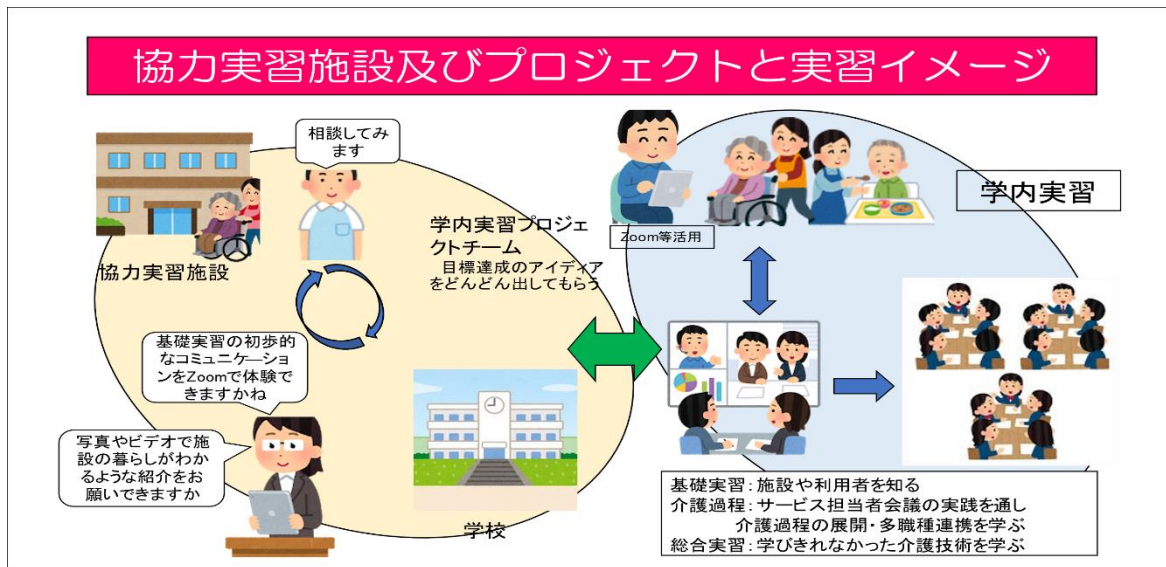
実習開始直前に、学内でオリエンテーションを実施した。

「介護実習の手引き」を基に、基礎実習の目的・目標、実習の心得を確認した。また「介護実習新型コロナウイルス感染対策マニュアル」を活用して、感染症対策について再度確認をおこなった。

実習中に感染症予防で使用する物品として、「マスク」「アルコール消毒液」を配布した。マスクの使用については、実習先に到着後と昼休憩後に新しいものと取り換えること、「フェイスシールド」については、必要であれば授業で使用していたものを持参するように指導

した。

図 1 協力実習施設及びプロジェクトと実習イメージ



出展：井上理絵（2020）「感染症と学生生活」

(5) 手洗いチェッカーにおける手洗いのチェック

実習前に 1 週間お盆休暇があったため、実習初日は学内実習をおこなった。

学内実習のプログラムに、感染予防策である標準予防策（スタンダード・プリコーション）の復習を取り入れた。また、普段おこなっている手洗いで洗い残しがあるか確認ができる「手洗いチェッカー」を用いて手洗いチェックをおこなった。その結果、大多数の学生は手洗いに洗い残しがあることを目視でき、普段の手洗いでは不十分であることを確認した。再度、正しい手洗い方法について映像を用いて学び、実際に全員でおこなった。

III. 感染症予防の実践及び行動の評価

1. 調査方法

(1)対象者：2020 年度 健康福祉学科入学生 37 名

(2)期 間：2021 年 1 月 8 日から 2021 年 1 月 9 日

(3)方 法：入学当初から感染症予防における意識と行動の変化についての質問紙調査

グーグルフォームにて質問紙調査法でおこなった。回答の返信を持って同意を得たこととした。

2. 倫理的配慮

質問紙調査法において、調査用紙に回答しなくても不利益を与えるものではないこと調査用紙は匿名での回答のため、プライバシーは保護されること、グーグルフォームの設定で「メールアドレスの収集する」を外してあるため、返信をしても匿名の回答となりプライバシーが守られる設定であることを調査票にも記載をし、また、メールで伝達をおこなった。また

調査結果は目的以外には使用せず、データの管理は数値化・記号化し、個人を特定されないように配慮をおこなった。本調査については 2021 年 1 月 5 日富山短期大学倫理審査会にて承認を得ている（受付番号 R2-18）

3. 調査項目

調査の枠組みを「入学前」「入学後の対面授業」「現在」とした。また、「入学後からの取り組みについて」では、学科内での取り組みを学生がどのように評価しているのかを読み取れるようにした。

質問内容は、入学前から現在に至るまでの感染症予防に対する意識と行動の変化について問う内容として、「新型コロナウイルス感染症についての不安感」「不安（どちらかという）」と答えた方は、どのようなことに不安を感じていたか」「どのような感染症予防をおこなっていたか・いるか」「自分の健康状態に関心の有無」「人と話すときの一定の距離をについて」「手洗いはおこなっていたか・いるか」「現在の手洗い点数は 100 点満点中、何点か」「感染症予防で意識して気をつけていたことはあったか」とした。

対面授業開始より、使用教室等の消毒を実施してきたことから、学生が実際にどのように考え実施してきたのかを問う内容として、「使用教室等の消毒について提案され、どのように感じたか」「実際に実施し感じたことを記述」とした。また、介護施設・事業所等で基礎実習がおこなわれたため、学内での取り組みが役に立ったのかを問う内容として「実習前に学内でおこなっていた感染症予防が役に立ったか否か」と、「施設・事業所ではどのような対策がおこなわれていたか」「実習先で感染症対策を見学・体験してどのように感じたか」として、実習先での感染症対策について問う内容とした。

入学後からの取り組みについては、学科内での取り組みと授業等での講義内容について役に立ったか否かを問う内容として、「zoom での遠隔授業」「感染症予防についての講義」「職員が新型コロナウイルス感染症を発症した施設からの講義」「正しい手洗いの仕方についての講義」「手洗いチェッカー」「使用教室等の消毒」「体調チェックシート」についてとした。

4. 結果

(1) 感染症予防における意識と行動の変化

令和 3 年 1 月 8 日 17 時から 9 日 17 時を締め切りとして、グーグルフォームにて質問紙調査法でおこなった。回答は 37 名中 25 名から得られ、回答率は 67.5%であった。

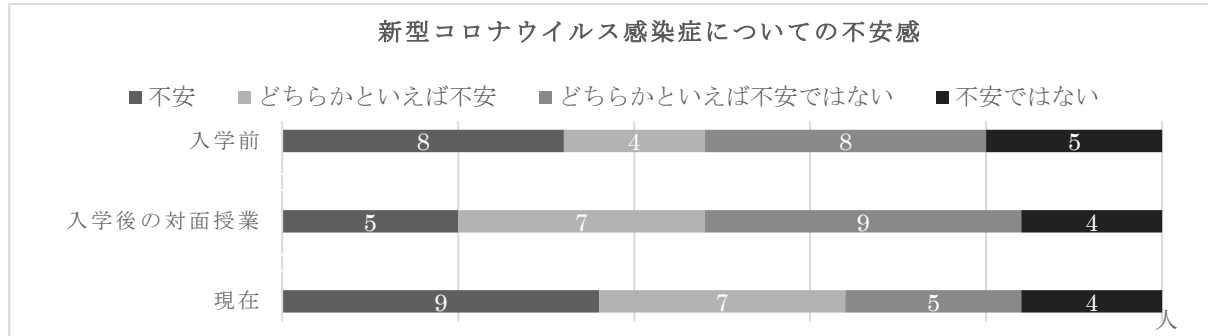
① 新型コロナウイルス感染症についての不安感

新型コロナウイルス感染症について不安があるかどうかの問いについての回答は、図 2 の通りである。

入学前に不安（「不安」＋「どちらかという」と不安）と答えた人が全体の 48%で、不安ではない（「どちらかという」と不安ではない）＋「不安ではない」と答えた人は 52%であっ

た。入学後の対面授業では、入学前と変わらない数値であった。現在では、不安（「不安」＋「どちらかという不安」）と答えた人が 64% 不安ではない（「どちらかという不安ではない」＋「不安ではない」）と答えた人が 36%となっている。

図 2 新型コロナウイルス感染症についての不安感



② どのようなことに不安を感じていたのか

どのようなことに不安を感じていたのかの問いへの回答は、表 3 のとおりである。

表 3 どのようなことに不安を感じていたのか

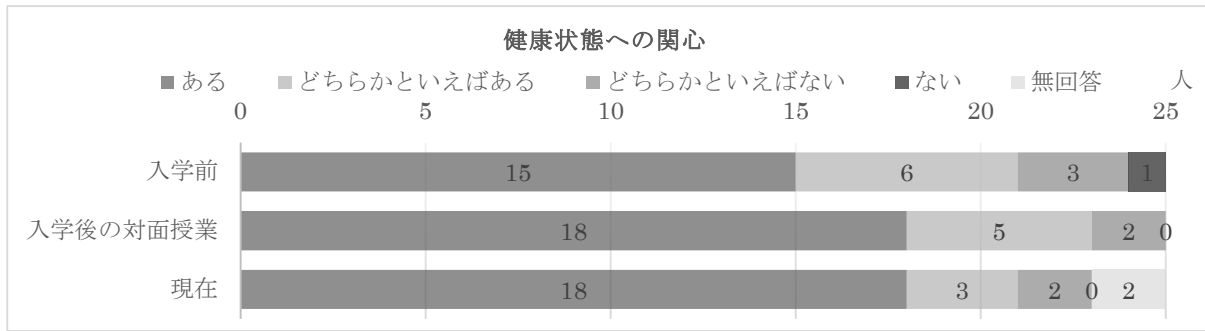
入学前	入学後	現在
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが増えてきている所があり不安 ・まだ、コロナについてもよくわかっていなかったのを予防すればいいのかもわからず不安 ・自分もうつるのではないか ・コロナどんな症状が出るのか不安 ・学校がどれだけ対策されているか分からなかったのを、普通に通学して大丈夫なのか不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業が始まっても感染する危険性が高まるだけではないのか ・どんどん感染者が増えていって、もしかしたら自分もなるかもしれないから怖い ・初の県内感染者が確認され不安を感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・また感染者数が多くなり、富山でも 1 日で最高人数が出たりにしているので前より少し不安 ・第 3 波がきてから感染者が増え、自分にも移ったらどうしようという不安 (2 名) ・コロナの危機が身近に迫ってきてる怖さがすごい ・通学のために利用しているバス、電車は満員のため、人との距離が近いこと ・県内の感染が広がっているなか実習を行うことに対する不安 ・またリモートに戻るのではないか ・飛沫感染 ・どこで自分が感染するか分からない ・学生の危機意識の低さに不安を感じる。コロナは自分達にはあまり関係がなく、対岸の火事だと思っているような気がする。
<ul style="list-style-type: none"> ・まだ県内での感染者がいなかったためそこまで不安には感じていなかった ・入学式はあるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習はどうなるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防を毎時間行っているの、不安は減っている ・学生達の消毒が雑

③ 自分の健康状態への関心

自分の健康状態への関心についての問いについての回答は、図 3 のとおりである。

入学前、ある（「ある」＋「どちらかといえばある」）と答えた人が全体の 84%であった。入学後の対面授業開始時では、92%となり現在では無回答者 2 人を外すと 91%とほぼ変わらない。

図 3 健康状態への関心



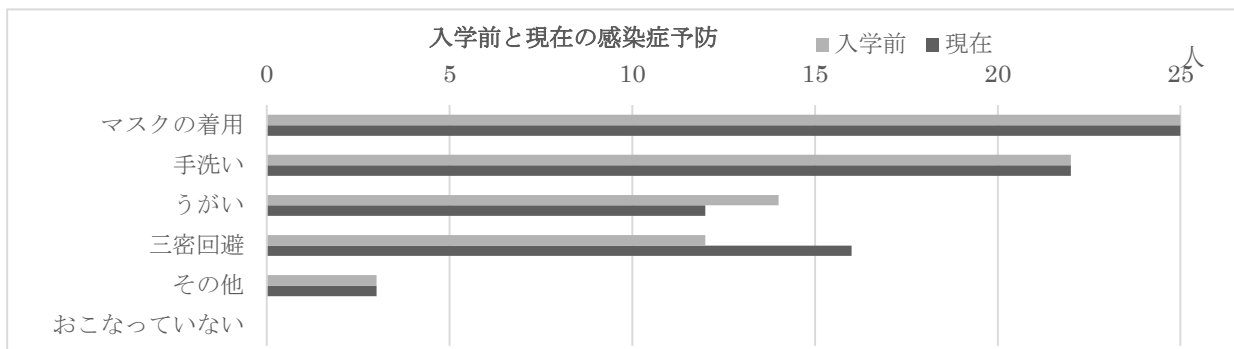
④ 入学前と現在の感染予防の比較

入学前と現在の感染症予防についての問いに関する比較は、図 4 のとおりである。

入学前では、「マスクの着用」100%、「手洗い」88%、「うがい」56%、「三密回避」48%「その他」12%で、「おこなっていない」0%であった。

現在では、「うがい」が 56%から 48%に減少し、「三密回避」が 48%から 64%に増加した。

図 4 入学前と現在におこなっている感染症予防

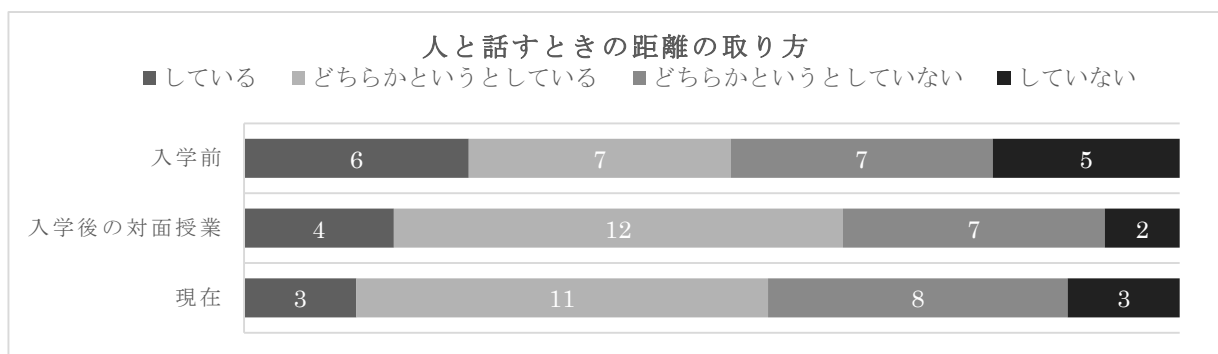


⑤ 人と話すときの一定の距離の取り方

人と話すときに一定の距離を取っているかについての問いの回答は、図 5 のとおりである。

入学前に「人と話すときは一定の距離を取るようになっていた、どちらかというとしていた」と答えた人は、全体の 52%で、入学後では 64%、現在では 56%で入学後より減少している。

図 5 人と話すときの一定の距離の取り方



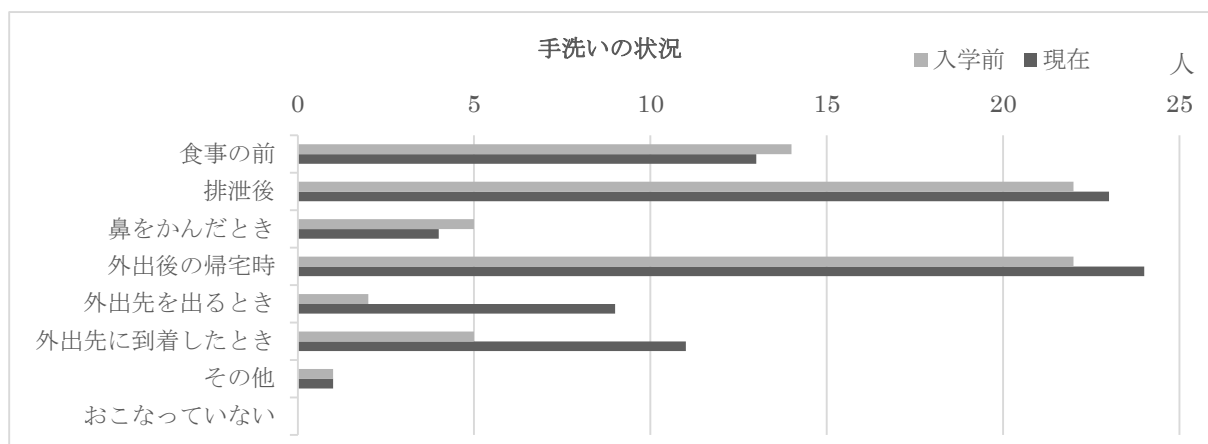
⑤ 入学前と現在の手洗い状況

入学前と現在の手洗い状況についての問いの比較は、図 6 のとおりである。

入学前は、「食事の前」56%、「排泄後」88%、「鼻をかんだとき」20%、「外出後の帰宅時」88%、「外出先を出るとき」0.8%、「外出先に到着したとき」20%、「その他」0.4%「おこなっていない」は0%であった。

新型コロナウイルス感染症の予防では、ウイルスを持ち込まない持ちださないことが重要であり、特に「外出後の帰宅時」、「外出先を出るとき」、「外出先に到着したとき」の状況について、入学前と現在を比較すると「外出後の帰宅時」は、88%から96%に、「外出先を出るとき」は、0.8%から36%に、「外出先に到着したとき」は、20%から44%と増加している。

図 6 入学前と現在の手洗い状況



⑥ 現在、手洗いに点数 100 点満点中、何点か

現在の手洗い点数の平均点は、表 4 のとおりである。全体の手洗い点数の平均は、66.0 点であった。次に不安と回答したものと、不安ではないとしたものに分け平均点を見たところ、不安と回答したもののうち未回答 1 人をはずし、15 人の平均点で、62.6 点であった。

不安ではないと答えた人は 9 人で、平均点は、71.6 点であった。不安ではない人の方が、9 点高い得点であった。

表 4 現在の手洗い点数平均点 n=24

		人数	平均点
全体		24 人	66.0
不安感	不安	15 人	62.6
	不安ではない	9 人	71.6

⑦ 使用教室等の消毒についての提案の感想

22 名が回答した。「消毒をすることは、よいと思う」12 名、「必要な事だと感じていた」「全然、大丈夫」「面倒（大変）だったけど仕方ない」4 名、「正直面倒くさいと感じたが、感染予防のためにはやらなければいけないことだと思った」「面倒くさい」その他に「使用教室の消毒も大切かもしれないが、意識が低いままでは変わらない」「消毒作業は正直、効果があるのか分からない」という感想であった。

⑧ 使用教室等の消毒を実際に実施して感じたこと

使用教室等の消毒を実際に実施して感じたことを自由記載とし、内容は表 5 のとおりである。

表 5 使用教室等の消毒を実際に実施して感じたこと

<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策がしっかりできたと思うので良かったと思う ・いいと思う ・少しでも安心できるのでいいと思う ・綺麗にされてある ・短大では感染者が出ていないので、消毒の効果があるのかなと感じた ・大変だけどする意義はあると思った。ただ、ハイターしたあと直ぐに水拭きして効果があるのか (2件) ・消毒作業を行うのは良いが、前期に比べてきっちり消毒をやる人が減った ・消毒は本当に効き目があるのか気になる (2件) ・本当に役に立つのかわからない ・本当に意味があるのか・意味があって欲しい ・消毒後、すぐに水拭きをすると効果が薄れる事と、ゴム手袋が無いので手荒れがひどくなるのが気になる ・少し大変 ・だんだんみんなの気持ちが緩み始めて、曜日で分けられていても私自身もだが、忘れる人が多くなっていると思う ・消毒するのが面倒ならば、一人ひとりが徹底して学内に持ち込まないという意識を持って欲しい、帰校時に消毒しても、登校時に持ち込みすれば意味がない ・特に感じたことは無い ・無回答 4 件

⑨ 基礎実習前に学内でおこなっていた感染症予防は役に立ったか

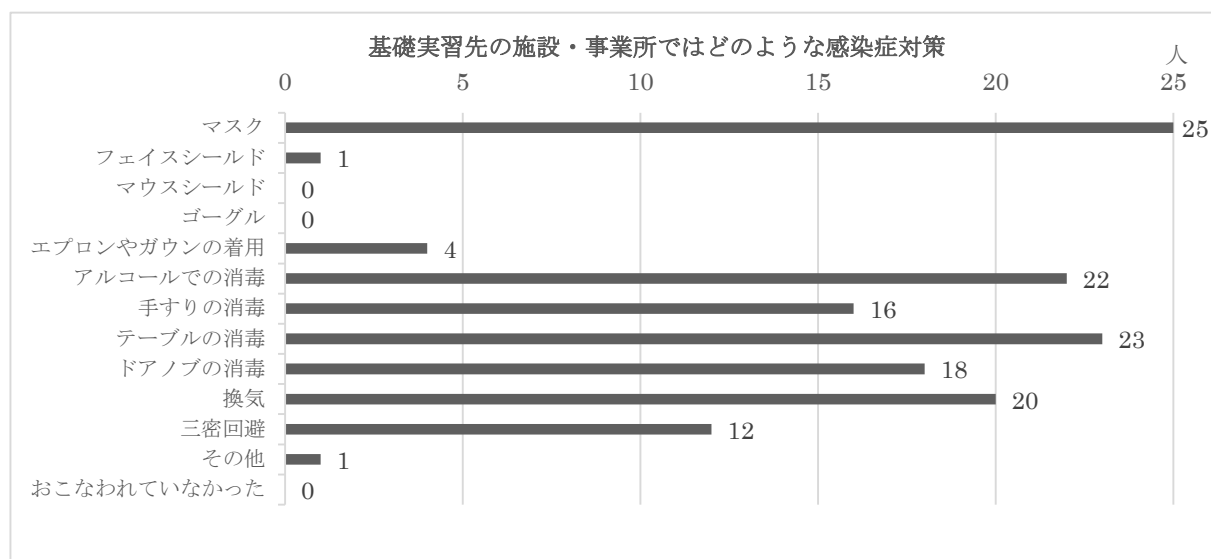
基礎実習前に学内でおこなっていた感染症予防が「役に立った」18名、「どちらかという」と役に立った」6名、「どちらかという」と役に立たなかった」0名、「役に立たなかった」1名であった。

⑩ 基礎実習先の施設・事業所ではどのような感染症対策について

実習先の感染症対策についての問いについての回答は、図 7 のとおりである。

実習先の施設・事業所では、感染対策として、マスクの着用、アルコールでの消毒、施設内の消毒、換気や三密回避が実施されていた。

図 7 基礎実習先の施設・事業所ではどのような感染症対策



⑪ 基礎実習先で感染症対策を見学・体験をしての感想

基礎実習先で感染症対策を見学・体験しての感想は、表 6 のとおりである。

表 6 基礎実習先で感染症対策を見学・体験をしての感想

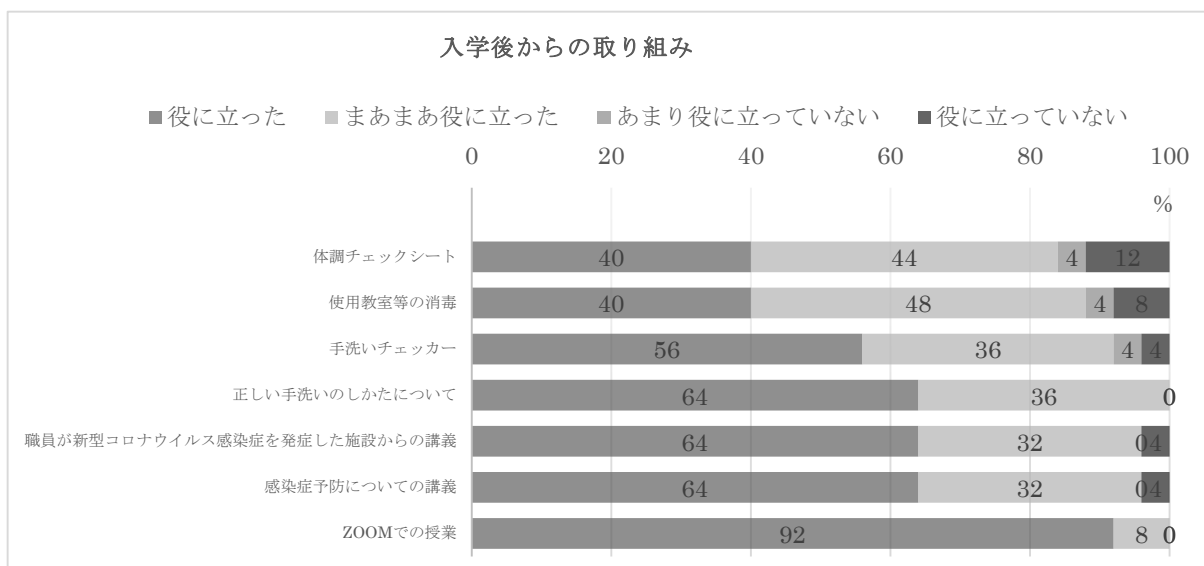
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方に配慮して感染症対策をしていてとても良いと思った ・高齢者のため感染すると重症する可能性があるため、きちんと対策をしないといけないということが改めてわかった ・細かいところでもするんだと思った ・高齢者ばかりなので、するの当たり前だと感じた ・短期大学と同じような感染症対策だった (2件) ・アルコール消毒を徹底していた ・徹底していると感じた (5件) ・短時間に何度も消毒を行っていたのですごいと感じた ・1階担当の職員、2階担当の職員と分けていた、1階 2階の利用者の行き来も制限されていたりして交流する機会が減ってしまうが、命を守ることが優先のため感染予防をしっかり行わなければいけないと思った ・気づいてふと見たら消毒をしている清掃員の方がいたりと徹底していると感じた ・消毒は大切だと思った ・徹底的にやっているかと思っていたがそこまで完全に消毒をするのではなかったので意外 ・人によって、温度差がある ・利用者でマスクをしていない方も多く少し不安を感じた。アルコールや体温測定はしっかり行われていた ・無回答 (4件)
--

⑫ 入学後からの取り組みについて、役に立ったか否かの回答

入学後からの取り組みについて、役に立ったか否かについての回答は、図 8 のとおりである。

「体調チェックシート」84%、「使用教室等の消毒」88%、「手洗いチェッカー」92%、「正しい手洗いのしかたについての講義」100%、「職員が新型コロナウイルス感染症発症した施設からの講義」96%、「感染症予防についての講義」96%、「zoomでの授業」100% が「役に立った・まあまあ役に立った」と回答した。

図 8 入学後からの取り組み



⑬ 現在、感染症予防で意識して気をつけていること

現在、感染症予防で意識して気をつけていることについての問いの回答は、表 7 のとおりである。

表 7 現在、感染症予防で意識して気をつけていること

<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの徹底、外から帰ってきたら手洗いうがいをすること ・消毒をこまめにする ・3密を避けることを特に心がけている ・密にならないよう行動をしている ・換気、こまめに水を飲むようにしている ・手洗いうがい・三密回避 ・県外の移動を自粛している ・外出は極力しない ・人の多いところには行かない ・外出を控える、県外にいる友達には会わない ・マスク ・自分の行動範囲に持ち込まない ・もし、自分が保菌者だとしたらと考え移さないようにする ・食事中、席を立つ時は必ずマスクをして移動する ・無回答 4 名

⑭ その他、感染症対策についての意見・要望・感想など

4 件の回答があり「感染症対策はとても重要だと思う」「1 年生だけに共有スペースの消毒が任されているのが不公平。選択科目の有無により実施メンバーに偏りがあることも不公平。清掃業者に委託した方が、消毒が徹底されるので安心である」「意識改革が、一番大切だと思う」であった。

IV. 考察

1. 正しい知識と感染症予防の実践

① 正しい知識

入学後からの取り組みで、「正しい手洗いのしかたについての講義」「zoom での授業」は 100% が役に立ったと答えており、「感染予防についての講義」は 96% が役に立ったと答えている。これらの取り組みは、新型コロナウイルス感染症予防についての正しい知識の習得に役に立ったと考えられる。

② 感染症予防の実践

入学後、「マスクの着用」「手洗いやうがい」「三密回避」を説明してきたところ、「三密回避」が 48% から 64% に増加している。一方で、「人と話すときに一定の距離をとっている」が入学前 52% から入学後 64% まで増加していたが、現在、56% となっている。

現在、意識していることとして、三密回避や席を立つ時は必ずマスクをして移動するなどを記載している学生もいるが、入学後、クラスメイトと親密になることで心理的な距離感が近くなるとともに物理的な距離感が近くなってきており、常に感染症予防を意識化する雰囲気作りが課題である。

③ 手洗い

実際に手洗いがきちんとされていたかどうかを目視できる「手洗いチェッカー」につい

では 92%が役に立ったと回答しており、ただ洗うだけでなくウイルス除去の正しい手洗いが意識化されたと考えられる。施設や学校、家庭にウイルスを持ち込まない、持ち出さないことが重要であり、外出後の帰宅時、外出先を出るとき、外出先に到着したときに実践する人が増加していることから、手洗いに関することは効果があったと考えられる。

2. 体調チェックシートによる健康管理の習慣化

体調チェックシートについては 84%が役に立ったと回答しており、学生自ら記入欄が少なくなると新しい用紙を求めてくるようになっていたこと、また、健康への関心が「ある」と回答した人が入学前 84%から入学後 92%と増加しており、体調チェックシートの活用は学生への健康管理の習慣化に役に立ったと考えられる。

また、新型コロナウイルス感染症に関して、入学前と対面授業開始より、現在の方が不安とした学生が多かった。そのため、新型コロナウイルスへの不安感から、体調チェックなどの日常生活における感染症への警戒心が高まったのだとも考えられる。

3. 教室などの消毒による感染症予防の動機づけ

教室等の消毒に関しては、88%が役に立ったと回答している。教室等、複数の人が触れる箇所の消毒を提案されたときには、「消毒をすることは、よいと思う」「必要な事だと感じていた」との回答があり、実際に実施をおこなったの感想には、「感染対策がしっかりできたと思うので良かったと思う」「少しでも安心できるのでいいと思う」「短大では感染者が出ていないので、消毒の効果があるのかなと感じた」等の肯定的な感想が記述されている。実習に入る前に、学内で教室等の消毒をする意識づけをおこなったことにより、基礎実習先で役に立ったと考えられる。一方で、コロナ禍の長期化により、緊張感がゆるみ、消毒を行わないで帰宅する学生が増えてきたことも課題である。

4. 新型コロナウイルス感染症予防対策マニュアルの作成と実習準備

基礎実習前に学内でおこなった感染予防が役に立ったかという問いに、役に立った(「役に立った」+「どちらかというと役に立った」と回答した人は 24 人(96%)であり、役に立ったと考えられる。入学後からの取り組みでの問いでも「職員が新型コロナウイルス感染症を発症した施設からの講義」が 96%、「手洗いチェッカー」が 92%役に立ったと回答している。

基礎実習先の感染症対策についても「感染対策として、マスクの着用、アルコールでの消毒、施設内の消毒、換気や三密回避」が実施されており、感想についても「高齢者のため感染すると重症する可能性があるため、きちんと対策をしないといけない」「命を守ることが優先のため感染予防をしっかり行わなければいけない」等が記載されている。実習前にマニュアルを作成し、感染症予防についても知識を獲得したことから、実習先の感染症対策を意識して観察等をおこなうことができたと考えられる。

V. まとめ

入学後からの取り組みについて、すべての項目が「役に立った」との回答であった。中でも施設職員からの講義や感染症予防に関する講義については 96%の学生が役に立った

という回答であった。そのため、一連の取り組みは知識、意識づけをおこなうことに役に立ったと考えられる。

人と話すときの一定の距離については、入学前よりも入学後の方が意識をして距離を取っていたが、現在では一定の距離をとっていないと回答した学生が入学後よりも減少した。これは、時間の経過とともに学生間の親密度が増していったためだと考えられる。一方、手洗いに関しては、外出後の帰宅時、外出先を出るとき、外出先に到着したときに実践する人が増加している。

今後も感染症予防について講義等を活用し意識付けをおこない、常に感染予防を意識化する雰囲気づくりと学生が楽しみながら感染予防を実施できる取り組みを検討していくことが課題である。

参考、引用資料

厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」 アクセス日：令和 3 年 1 月 9 日

(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000599698.pdf>)

厚生労働省「国民の皆さまへ（新型コロナウイルス感染症）」 アクセス日：令和 3 年 1 月

9 日 (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00094.html)

厚生労働省「新型コロナウイルス感染症予防法」 アクセス日：令和 3 年 1 月 9 日

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html#Q3-1)

倉橋 節也 (2020)「新型コロナウイルス (COVID-19) における感染症予防策の推定」筑波大学ビジネス化学研究群 人口知能学会論文誌 35 巻 3 号

工藤弘 (2005)「中等教育におけるモデリングの効果に関する最近の研究動向」信州大学教育学部紀要 115 巻